

事後評価報告書(日中研究交流)

1. 研究課題名:「生物機能を強化した水環境のバイオレメディエーション」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:国立大学法人 東京農工大学 大学院工学研究院 教授 細見 正明

2-2. 中国側研究代表者:中国科学院 土壤研究所 教授 Shi Weiming

3. 総合評価:(A)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

農地を対象とした水環境の修復とバイオマス生産という今日的な課題解決型研究において、両国の実態調査を十分行った上で、面的負荷削減、水質浄化など網羅的かつ実用に供する研究成果が得られた。両国の研究スキルやシーズを相互補完できる研究分担計画により、相互支援をしながら研究を進めたことは評価できる。経済性についての検討が行われなかったと思われるが、バイオレメディエーション、エコレメディエーション技術は経済性も重要な要素であり、実用面での成果がやや弱い印象であるのが残念である。

(2)交流成果の評価について

両国の研究者の交流に加えて、茨城県、琵琶湖他実験施設の視察などにより、研究交流機会が大幅に増え、研究交流の持続的発展に寄与した。また、上海市農業科学院の実験圃場の設計に参加できたことは評価できる。長期にわたる若手研究者を受け入れての共同研究実施は、今後の発展が期待できる信頼関係の構築に寄与したと思われる。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

ワークショップ、シンポジウムを開催し、共著論文も国際誌に5件掲載された。研究成果が日本側大学の環境リーダー育成拠点形成プログラムによるシンポジウムで「Excellent Poster Award」を受賞したことは評価できる。アレロパシー効果の解明に関する研究成果は、湖沼など他の領域にも適用できるものと思われる。中国での具体的な現場への浄化技術の展開が期待されるが、実用化にあたっては経済性も十分に検討する必要がある。